

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和6年度8月号

○ 概要

- (1) 令和6年度8月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,853億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲1.8%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,724円（伸び率▲0.8%）であった。（→P.1,2）
 調剤医療費の内訳は、技術料が1,832億円（伸び率+1.0%）、薬剤料が5,007億円（伸び率▲2.8%）、薬剤料のうち、後発医薬品が913億円（伸び率▲3.3%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,565円（伸び率▲4.1%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.81種類（伸び率+0.1%）、28.1日（伸び率+2.4%）、71円（伸び率▲6.4%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,922億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲213億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39その他の代謝性医薬品の748億円（伸び幅+13億円）で、伸び幅が最も高かったのは52漢方製剤の+25億円（総額155億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,922 億円 (▲213 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(748 億円)	21 循環器官用薬 (541 億円)	11 中枢神経系用薬 (534 億円)
0歳以上	16.3 億円	44 アレルギー用薬 (4.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)	61 抗生物質製剤 (2.5 億円)
5歳未満	(▲0.6 億円)			
5歳以上	94.3 億円	44 アレルギー用薬 (29.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (27.0 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(7.5 億円)
15歳未満	(+4.3 億円)			
15歳以上	1,465 億円	39 その他の代謝性 医薬品(282 億円)	11 中枢神経系用薬 (280 億円)	42 腫瘍用薬 (170 億円)
65歳未満	(▲131 億円)			
65歳以上	809 億円	39 その他の代謝性 医薬品(185 億円)	42 腫瘍用薬 (141 億円)	21 循環器官用薬 (126 億円)
75歳未満	(▲87 億円)			
75歳以上	1,537 億円 (+1 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(272 億円)	21 循環器官用薬 (249 億円)	42 腫瘍用薬 (204 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,724円（伸び率▲0.8%）で、最も高かったのは高知県（11,602円（伸び率▲1.0%））、最も低かったのは佐賀県（8,459円（伸び率+1.1%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福島県（伸び率+4.0%）、最も低かったのは沖縄県（伸び率▲3.5%）であった。（→P.31～32）

«後発医薬品の使用状況について»»

【後発医薬品割合】(→P.39)

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	86.4 %	+1.8 %
薬剤料ベース	18.2 %	▲0.1 %
後発品調剤率	79.8 %	▲0.7 %
(参考) 数量ベース（旧指標）	58.6 %	▲1.4 %

注) [後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】(→P.40~41)

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.3 %	+5.8 % (5歳以上 10歳未満)	▲11.1 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.2 %	26.9 % (100歳以上)	9.2 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	86.4 %	90.3 % (100歳以上)	81.8 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】(→P.46~50)

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	778 億円 (▲31 億円)	21 循環器官用薬 (243 億円)	11 中枢神経系用薬 (141 億円)	23 消化器官用薬 (95 億円)
0歳以上	5.6 億円	44 アレルギー用薬 (3.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.6 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5歳未満	(▲0.5 億円)			
5歳以上	14.7 億円	44 アレルギー用薬 (8.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.8 億円)
15歳未満	(+1.1 億円)			
15歳以上	274 億円	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (66 億円)	44 アレルギー用薬 (27 億円)
65歳未満	(▲8 億円)			
65歳以上	159 億円	21 循環器官用薬 (61 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	23 消化器官用薬 (20 億円)
75歳未満	(▲16 億円)			
75歳以上	325 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (113 億円)	11 中枢神経系用薬 (53 億円)	23 消化器官用薬 (48 億円)

【後発医薬品 都道府県別】(→P.55~60)

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,295 円	1,659 円(北海道)	1,111 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.3%	+2.0 %(徳島県)	▲7.6 %(沖縄県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	86.4 %	92.0 %(沖縄県)	83.2 %(東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.2 %	20.8 %(鹿児島県)	16.1 %(京都府)
後発医薬品調剤率	79.8 %	84.4 %(沖縄県)	75.8 %(東京都)
(参考) 旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.6 %	64.7 %(沖縄県)	54.9 %(東京都)

[利用上の留意点]

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和6年度8月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。